

# しょう い だん ひ がい 焼夷弾による被害

1945(昭和20)年5月24日、<sup>しばくぼ むこうだい</sup>芝久保や<sup>しょういだん</sup>向台に焼夷弾が落ち、<sup>すうけん ぜんしょう</sup>数軒が全焼しました。<sup>ぎせいしゃ</sup>犠牲者はあり  
ませんでした。畑が火の海になり、農作物に大きな被害が出ました。後で焼夷弾の<sup>つつ</sup>筒を集めたら、  
リヤカー数杯分にもなったといひます。



全焼した農家(芝久保)

西東京市図書館 地域・行政資料室提供



庭先から拾い出された焼夷弾の筒(1981(昭和56)年)

<sup>しょういだん</sup>焼夷弾とは町を焼きつくすために設計された爆弾。<sup>ばくだん</sup>材料によっていくつかの種類がある。<sup>とうきょうだいこうしゅう</sup>東京大空襲でも使われたM69焼夷弾は直径7cm、長さ50cmの六角形の鉄の<sup>つつ</sup>筒にナパーム<sup>ざい</sup>剤(ゼリー状の油脂)をつめたもの。着地と同時に<sup>ばくはつ</sup>爆発し、火災を起こす。

